大和市子ども読書活動推進会議 会議記録

会議名	令和6年度 第1回 大和市子ども読書活動推進会議
開催日時	令和6年7月29日(月)15時45分～17時
開催場所	文化創造拠点シリウス 610大会議室
出席状況	参加委員 伊禮 利奈、今井 恵子、良知 仁美、内田 久美子 今宮 智子、福井 朱里、大川 伸子(順不同・敬称略)
	欠席委員 脇田 奈緒子、長嶋 智美、古木 裕彦(順不同・敬称略)
	市側出席者 文化スポーツ部長、〈事務局職員〉4名
	指定管理者 〈図書館スタッフ〉3名
	傍聴人人数 0人
公開非公開の状況	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
審議又は検討経過及び結果	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の出席状況の確認(10名中7名出席) ・配布資料確認 <p>2. 委員自己紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各委員自己紹介 ・事務局職員自己紹介 ・図書館スタッフ自己紹介 <p>3 会長及び副会長の選出</p> <p>事務局:7期目となる当会議としては、前期までの検討を踏まえながら、今後より実践的な取り組みについて検討していくことになると考えられる。そこで、前期においても当会議に参加していただき、地域ボランティアとしての経験が豊富な今宮委員に今期の会長をお引き受けいただきたいと思う。</p> <p>→了承</p> <p>今宮委員を会長に決定</p> <p>事務局:副会長については、立候補・推薦がなければ会長にご推薦をしていただきたい。</p> <p>→了承</p> <p>会長:小学校の知識もあり、地域文庫での活動実績もある伊禮委員を推薦する。</p> <p>→了承</p> <p>伊禮委員を副会長に決定</p> <p>4 議事</p>

(1) 第7期大和市子ども読書活動推進会議について(資料1)

◎事務局より、資料1を基に、第7期大和市子ども読書活動推進会議について説明。

質問意見なし

(2) こども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について(資料2-1, 2, 3, 4)

◎事務局より、資料2を基に、こども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について説明

質問意見なし

(3) その他

◎事務局より、資料3を基に説明

会長: 今回初めての委員もいるので、自身の活動の中から、現状の子ども読書活動について紹介してほしい。

委員: 保育園でも家読の日自体は周知されている。園では3・4・5歳児は毎週貸し出しを行っている。0・1・2歳児はどうしても手でものを触ったりするので、コロナの影響もあってストップしていた。最近では月1回家読の日に、0～5歳児対象にそのときだけ借りられる目新しい特別な絵本の棚を用意して、そこから親子に貸し出す絵本のコーナーをオープンしている。好評でもっと借りたいとおっしゃる親子もいるので、23日(家読の日)だけに限らず、週1回等に変えていこうと思っている。

家読の日のポスターが、もし園児や保護者の目につくようなひらがな等の可愛いもので絵本コーナー等にあれば、0～5歳児までに周知できるのではと思った。実際、そういうポスターを既にいただいている、貼っていないだけなのかは分からないが、園の中で家読の日の周知はされている。

大型絵本もとても喜ばれるので、地域で読み聞かせをする際は必ず持っていくようにしている。ブックスタートと同じ本等、知っている本の大型絵本があると、子どもたちの期待感が大きいので良いと思っている。

会長: 地域文庫の活動について簡単に教えてほしい。因みに大和市の中で今活発に文庫として活動している団体は本当に少ないと思う。個人的に集まって読み聞かせをするというのはあると思うが、文庫として活動している団体は少ない。

委員: すごい親子文庫は毎日開所している図書館等とは違い、地域のボランティアが行っているの、週に1回月3回しか開所していない。時間もどうしても限られてしまうので、利用者もそこに合わせて来てもらうことになる。コロナの時期には少し利用ができなかったこともあり、年々利用者は減少傾向に感じていたが、ここ最近では友達同士やロコミ等、今まで1日1・2組くらいだった利用者が毎日入れ替わり立ち替わり来ていただけるようになり、少しずつ利用者が増えてきている。

「親子文庫」とは言っても、親子に限定しているわけではなく、どなたでも来ていただけるような場所としている。現在は地域の年配の方が折り紙を教えてくれる等、本の場所をとおして交流があるのも今のでごいちの良いところかと思っている。予算や活動的なところでは、図書館のように新しい本をすぐ買って新刊を取り入れることは現状難しいが、その中でも工夫しながら活動している。逆に言えば、もしかしたら図書館では見つからないような、今では絶版になっている本や初版の本等、古い本を宝探しみたいな楽しさで皆さんに見つけてもらいながら活動していけたら良いと思っている。文庫としての宣伝の場やアピールの場もないので、本当に口コミで細く長く続けているような文庫だ。皆さんもこんなところが南林間にあると知ってもらって足を運んでいただけたらと思う。本当は小学生とか地域の子たちの放課後の過ごしの一つとしても、もう少し広まってくれたら良いと思っている。

会長：読み聞かせボランティアの方々と小学校との関係など、活動内容を教えてほしい。長年活動している中で何か子どもたちの変化を見て取れるか。

委員：最初はやはり自分が未熟ということもあり、結構ざわつく感じだったが、最近のお子さんたちは絵本の読み聞かせが来ることがよく分かっている様子で、とても集中して聞いてくれる。だから、読む方も反対に乗せられて、すごく楽しく読める。

自分が難しいと思うのは選書だ。昔ばなし等も読んでみたいが、現代の感覚と結構ずれていたりすると、読みにくいと思ってしまうものが多くあるので今悩んでいる。

会長：実際に読書活動に携わっていると、それが100%良いと思いがちだが、実は生涯学習という目から見ると、色々な領域のそれぞれ分野がある中の1つだ。生涯学習という大きな視点で、今現在は何のくらいの割合で本・読書の話は受け止められているのか。

委員：いろいろな議題があり、話し合いの中の一部にはなっているが、皆の中でやはり絵本やおはなしというのは、割と大きな割合を占めていると思う。それは図書館がいろいろな活動の仕方を支援して下さることが身についており、私たちの方にもそれがひしひしと伝わってくる。社会教育委員もそういう認識をもっており、割と意識が高いのではないかと思う。

会長：次回までに資料に目を通していただいて、意見があったら書き込んで、次の委員会で発言していただけたらと思う。

事務局：次回は10月上旬に開催予定

3. 閉会

以上